就職活動応援特集

東京水道

管路整備部 小管設計第二課　**國松 海月さん**

納得感重視し現実的な配管に尽力

■安定・成長
両立する企業

一家揃って工業系だという國松さん。石川県内の工業高等専門学校に進学し、土木分野を学んだ。就職では「石川を出てみたい」という希望から、教員の勧めもあり、高専OBが多く進んだ東京水道株式会社（TW）に。コロナ禍の就職活動には不自由な思いもしたが、OBに会社の雰囲気を聞きながら「年の近い人が多いと聞いて、働きやすそうだな」と決断した。

TWは首都東京の水道を支える東京水道グループの一員として、東京都水道局から移管された技術系・営業系業務を担う日本最大級の〝水道トータルサービス会社〟。同局から業務移転範囲のさらなる拡大方針が示されており、今まさに急スピードで拡大・成長を遂げている企業だ。

■地に足付け
着実・確実な設計

都の配水管延長は約2万7000キロメートルに及ぶ。いついかなる時にも水道水の安定供給を保つためには、この膨大なボリュームの管路の維持管理が未来永劫必要だ。これに対して國松さんは、入社以来の3年間、口径350ミリ以下の「配水小管」更新工事の設計を務めてきた。

「一日で終わることがない仕事なので」と言うように、出社後、コンサルタントから送られてくる図面をチェックし、納期の近い案件から処理を進め、時には道路管理者との協議に出向くというのがルーティン。「基本的に自分のペースで仕事を進められるため、定時に帰ることが多いし、3年間、休日に仕事を持ち帰ったこともありません」。

担当エリアは住宅地が多い。ガスや電気などの他企業管が混雑して埋まっていることは少なく、比較的設計はしやすい環境だという。「どちらかと言えば工事をするのが大変だと思います」と気遣えるのは、着手前に必ず現地に足を運んできたこだわりがあってこそ。現場を理解し、手戻りの少ない図面を作ることが、スムーズな工事進行に貢献することを自覚している。

「結局、設計通りに配管できなければ意味がありません。ただ自分自身はこれまで工事部門を経験していないため、机上では条件をクリアしているからと終わらせずに、迷うことがあれば工事を担当したことのある先輩や同期に相談し、現実的な配管ルートを絞るように努めています」と心がける。学生時代も、公式をただ暗記するのは苦手だったと振り返り、「非効率でも、自分の腑に落ちた情報で、納得感を持ってやっていきたい」と責任感をにじませた。

年代問わずコミュニケーションが活発な社風。最も身近な目標はチューターである2年上の先輩だ。「誰よりも仕事を持っているはずなのに、誰よりも早く帰るので、どうやっているんですかと質問しては、効率的なワザに驚きます。どう頑張っても追いつけない」と楽しみながら探究中だ。他方、後輩から寄せられる質問には先輩として真摯に対応し、それが自身の成長の機会になっていることも実感している。

将来は「工事部門を経験してスキルアップしたい」と展望。故郷の石川県を襲った能登半島地震での断水解消には、TWも応援に入ったが、國松さんは現地に赴く先輩を見送る側だった。「実家には影響がなかったのですが、親族は被災して、明るく〝水道直しに来て〟と言ってくれました。でも今の経験値では応えられないのが歯がゆかった。技術をもっと身に着けたい」と力を込める。

工事経験積みスキルアップ目指す

コンサルからの図面をチェックする

ディズニーリゾートを満喫

■くらしに寄り添う
福利厚生

入社当初は会社の寮に入ったが、新しくなった住宅補助制度を活用してより広い部屋に引っ越し、「ぐっと生活しやすくなりました」と大満足。休日には上京後にすっかり夢中になったディズニーリゾートに頻繁に訪れ満喫している。

実は教員にはほかにも「できれば転勤したくなくて、できれば女性が一生働けるところで…」と相談していた。全ての条件にぴったりとはまったTWについて、「準公務員ともいえる安定した待遇で、恵まれた職場だと感じます」と太鼓判を押している。

1日のスケジュール

8:30	出社、メールチェック 1日のスケジュールを確認
9:30	図面チェック、コンサルタントと電話等で調整
12:00	休憩
13:00	道路管理者と設計段階での協議
17:15	退社

東京都下水道サービス

施設部東部第一センター 有明事業所　**渋谷 秀平さん**

持続可能な社会の実現に貢献

生活に不可欠な下水道を支える

■海を守る下水道

東京都下水道サービス（TGS）は、東京都の政策連携団体として、下水道局との一体的な運営を行い、下水道サービスの維持向上に努めている下水道の専門集団である。社員は、直接採用した固有社員のほか、東京都のOB社員や、東京都、民間企業からの派遣社員で構成されている。

渋谷秀平さんは、出生後すぐに小笠原諸島に移住し、中学2年生まで同地で育った。同地では美しい海が基幹産業の観光業を支えており、「海が汚れると大きな痛手になると感じていました」と話す。

本州と同地を結ぶのは1週間に1便しかない船のみ。そのため、災害が発生して上下水道が機能停止に陥ったとしても、本州の自治体の応援をすぐに受けることは難しい。この環境が「インフラを適切に管理することの重要性を学ばせてくれました」と振り返る。

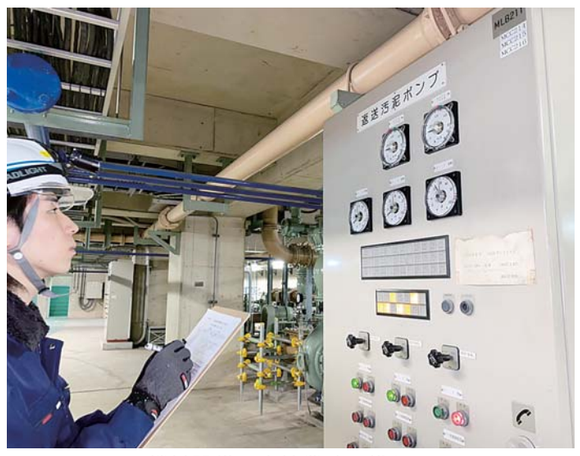
本州に戻り中学校を卒業した後は、東京都立産業技術高等専門学校に入学。2年生の学科選択では、機械システム工学コースを選んだ。産業機械を動かすための知識や技能の習得に励み、卒業研究では溶接残留応力に振動が与える影響について調査した。

TGSへは学校推薦を通じて入社。推薦入社の候補は多数用意されていたが、「インフラ関連の仕事に就きたい」という思いでTGSを選んだという。入社後は新人研修を経て有明事業所に配属され、4年目となった。

■水循環を支える

下水道では一般的に、下水が管路の中を自然流下で流れている。しかし、東京都下水道局の有明水再生センターが位置する臨海副都心地区では、埋め立て地で地面が平坦なため管路に勾配を付けることが困難であることから、ポンプによる圧送で下水を流している。

また同センターでは、下水処理水の一部にさらに高度な処理を施し、「再生水」として臨海副都心地区に供給しており、地域における水資源の循環利用の要となっている。供給された再生水は、トイレ用水や東京臨海新交通臨海線（ゆりかもめ）の車体洗浄用水などとして利用されている。



機械設備の点検業務に携わる

TGSの有明事業所では、臨海副都心地区の圧送用ポンプの保全管理や、同センター内の機器の保全管理、再生水事業における設備の運転管理・保全管理などを行っている。

渋谷さんの担当はセンター内の機械設備関連。業務は設備の日常点検や定期点検、故障が見つかった際の臨時点検や修繕、委託業務の監督など多岐にわたる。中でも修繕は、「決められた予算の中で完了できるよう、かなり頭を使いますね」と語る。

仕事のやりがいを聞くと、「この仕事は目立つようなものではありませんが、持続可能な社会を実現する上では、とても大きな役割を果たしていると感じています」と力を込めた。

■充実した私生活とともに

渋谷さんは時差出勤制度を利用して8時から16時45分までの勤務時間を選択している。「ラッシュを避けたオフピーク通勤なので快適です」と述懐。勤務後についても、「急な故障対応時などを除けば、定時に帰ることができており、自己啓発に充てるなど自分の過ごしたいように時間を使えています」とライフワークバランスの充実を語った。

休日はバイク免許の取得に向けて勉強の日々。旅行が趣味ということもあり、「いずれはバイクでサッと旅行をするということもしたいですね」と展望した。

就活生へのメッセージをお願いすると、「生活に不可欠なインフラである下水道を支え、社会貢献を果たしたいという方には、TGSは適した場所だと思います。東京都OBのベテラン社員から話を聞くことができ、研修も充実しています。お金をもらう上では厳しいこともちろんありますが、世のため人のためになる仕事をしてみたいという方にはぜひ興味を持ってもらえたら」と微笑んだ。

1日のスケジュール

8:00	始業 夜間の故障等確認・メールチェック
8:30	引継ぎ・KY（危険予知）ミーティング ※点検する際の注意事項や危険箇所、安全対策などを確認
9:30	現場作業・監督業務
12:00	昼休憩
13:00	現場作業・事務処理
16:00	作業報告・引継ぎ
16:45	終業

和で築き、技で育むTGS

東京都下水道サービス株式会社（TGS）は東京都下水道局のパートナーとして、
東京都の下水道事業を補完・代行するため、社員が一丸となって下水道サービスの維持向上に努めています。
これからもTGSは、確実な維持管理と革新的な技術でお客さまの信頼に応え、社会に貢献していきます。

東京都下水道サービス株式会社　〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-3 TEL 03-3241-0711 https://www.tgs-sw.co.jp

40th TGS Anniversary